

教科	国語	学年	第3学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 深まる学びへ世界はうつくしいと握手 漢字に親しもう1 文法への扉1 説得力のある構成を考えよう 言葉1 相手や場に応じた言葉遣い		◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) 【思・判・表】 意見聞き、適切さを判断する1時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。	・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →抽象的な概念を表す語句などを用いて、登場人物の人物像を表している。 ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。 ・単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(2年(1)オ) →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になることを理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →多様な立場から予想される反論について考えながら、意見と根拠、その結び付きを明確にしている。	・進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。 ・物語の展開のしかたを粘り強く捉え、今までの学習を生かして読み深めた感想を交流しようとしている。 ・助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
2 視野を広げて学びて時に之を習ふ ——「論語」から 漢文の訓読 作られた「物語」を超えて思考のレッスン 具体化・抽象化 論理の展開を意識して書く グラフを基に小論文を書く		◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)	・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合っている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、具体と抽象の関係を理解している。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、具体と抽象の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。	・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →論説の特性を踏まえ、「意見と根拠」「原因と結果」「具体と抽象」などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。	・人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。 ・進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。 ・具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。
3 言葉とともに論理の展開を意識して書く グラフを基に小論文を書く 漢字1 熟語の読み方 漢字に親しもう2 俳句の可能性 [書く]俳句の創作教室 俳句を味わう 言葉の釣り糸を垂らす 言葉2 和語・漢語・外来語 語彙を豊かに 時代や世代による言葉の変化		◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎俳句の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)	・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。	・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、筆者の評価のしかたを捉えている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)	・進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。 ・筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。 ・進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。

4 状況の中で 実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう 挨拶 ——原爆の写真によせて 故郷 慣用句・ことわざ・故事成語	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →比喩や象徴的な表現に着目し、文脈の中で意味を考えている。 ・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語を調べたりしている。	・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →自分の知識や経験と比べたり、語り手や人物の立場、時代背景などを変えて読んでみたりして、作品のもつ特性や価値を探っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →「私」が考えている「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。 ・「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →自分の知識や経験などと結び付けながら話を聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。	・詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。 ・文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。 ・慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。
5 自らの考えを 漢字2 漢字の造語力 複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない 課題と向き合う 考えを効果的に伝えよう 多角的に分析して批評文を書く 漢字に親しもう3 文法への扉 初恋	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)◎理解したり表現し	・第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →漢字の造語力を意識しながら、漢字の意味を理解し、読んだり書いたりしている。 ・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →言葉の響きやリズムを味わいながら詩に親しんでいる。	・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章の語句や表現を根拠に筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の知識や経験、他の人の考えと比べながら批判的に読んでいる。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどについて、根拠を明確にしながら評価している。	・学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。 ・三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。 ・進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。

6 いにしえの心を受け継ぐ 和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序 君待つと ——万葉・古今・新古今 夏草 ——「おくのほそ道」から	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★和歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に書かれているものの見方や考え	・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(C(3)ア) →「和歌の世界」を読んだり、「仮名序」を朗読して比喩的な効果を確認したりしながら、和歌に対する古人の思いを捉えようとしている。 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(C(3)ア) →三つの歌集の歌を比較したり朗読したりして、それぞれの作者の心情や詠まれた情景を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(C(3)イ) →特徴的な和歌の表現を引用して、自分の考えをまとめている。 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(C(3)ア) →作者や作品について興味をもち、俳句と地の文との関係に注意しながら読み、作者の思いを想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(C(3)イ) →古典の言葉を引用して、心に響く俳句について発表している。	・「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →和歌の表現方法について、その効果や、表されている心情などを踏まえて評価している。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →作者のものの見方や感じ方を読み取り、自分の知識や経験と比べながら、自分の考えをもっている。	・進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。 ・進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。 ・人間、社会、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。
7 価値を生み出す それでも、言葉を 漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう4 [話し合い(進行)] 話し合いを効果的に進めよう 合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ) ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。	・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(C(2)ア) →複数の参加者の意見の関係を捉えて整理している。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(C(2)ア) →複数の発言の共通点を結び付けて、一つの提案にまとめたり、複数の発言の中からよい点を取り上げたりしている。	・「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →話し合いの目的や進み具合などを確かめながら、効果的に話し合う工夫について、展望をもって考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →提案を分類、整理し、観点を決めて検討したり、互いの意見の長所を生かしたりして話し合っている。	・積極的に進行の工夫とその効果を分析し、今までの学習を生かして話し合いの効果的な進め方について考えようとしている。 ・合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
8 未来へ向かって 読書案内 本の世界を広げよう 温かいスープ アラスカとの出会い 律儀な桜 わたしを束ねないで 三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする 初日	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考える。	・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(C(3)オ) →ノンフィクションを読み、読書によって、さまざまな状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれることに気づいたりしている。 ・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(C(3)オ) →文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(C(1)ウ) →点画の変化と連続、次の文字への筆脈を理解している。 ・点画の連続や配列の書き方を理解している。 ・点画の連続や配列の書き方を理解して書いている。 ・身のまわりで見かける、文字の表現効果について理解している。	・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の生き方や作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何かについて、自分の考えをまとめていく。 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考える。	・人間、社会などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。 ・詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。 ・粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。
書写	◎行書の特徴について理解を深め、筆使いに気をつけて書くことができる。 ◎行書で学習したことを、日常生活に生かしていくことができる。 ◎行書の特徴について理解を深め、筆使いに気をつけて書くことができる。 ◎行書で学習したことを、日常生活に生かしていくことができる。 ◎これまでに身につけてきた書写力を生かして、「卒業」をテーマに、語句や文、表現形式を選んで卒業の記念制作に取り組むことができる。	・点画の変化と連続、次の文字への筆脈を理解している。 ・点画の連続や配列の書き方を理解している。 ・点画の連続や配列の書き方を理解して書いている。 ・身のまわりで見かける、文字の表現効果について理解している。	・点画の変化と連続、次の文字への筆脈に関する筆使いを確かめ、自己の課題を考えている。 ・点画の連続や配列の書き方を確かめ、自己の課題を考えている。 ・身のまわりで見かける、文字の表現効果について考えている。	・積極的に習得した知識・技能を振り返り、今までの学習を生かして書画を行っている。 ・積極的に身の回りの文字を探し、学習の見通しをもって見つけた文字による多様な表現について発表しようとしている。

※本表に記載のない教材については、適宜扱う。